

KIOSK BUSINESS PLAN

1. KIOSK（キオスク）とは

キオスクは、イランからインドにかけての庭園によく設けられていた。13世紀にはペルシア人からトルコ人に伝わり、オスマン帝国では宮殿や庭園などにキオスクが建てられた。キオスクという語はペルシア語のクシュク（kušk）に由来し、「日陰をつくる物」を指していた。キオスクを使う商人も多く、道路や公園などにキオスクを設置して新聞、雑誌、地図、ライター、タバコ、菓子など安いものを売っており、新聞スタンド・雑貨屋・駄菓子屋の機能を果たしている。キオスクと呼ばれるものの中には、催し物を紹介する無料のパンフレットや地図などを配布したり、観光客の案内所として使われるものもある。(情報：ウィキペディア)



世界中にあるキオスクだが、その中でもポルトガルのキオスクは別格に美しい。



2. 軽飲食はもちろん、外国人向け案内所としての新しいスポットに

2019年ラグビーW杯日本大会、2020年東京オリンピックと世界中が注目するイベントが続きます。日本政府観光局が発表した訪日外客数（2019年3月推計値）は前年同月比5.8%増の276万人を記録した。しかしオリンピック期間（17日間）によって来日すると考えられているのはのべ1,500万人。

そんな中、日本での設備環境や訪日外国人に対してのサービスが追いつけていない。IT技術が進化する現在、未だに街のど真ん中で途方に暮れる外国人をよく見る。スマートフォンで簡単に検索ができる時代だが、それが異国であり、言語が異なるだけで、通用しなくなるのだ。

外国人が日本で途方に暮れる要因は主に以下の内容だ：

- A. 日本人に道を尋ねても、英語が通じない。
- B. どこで聞いたらいいかわからない。
- C. 日本人の国民性上、積極的に話しかけない。
- D. スマートフォンを見るが地理知識がない。

→ **迷子**

以上の問題点を備えた新しいキオスクを公園、駅の中、バス停、など日本中に配置することで、訪日外国人はもちろん、日本人に対してもより良い環境を与えるとともに、より良い生活になると考えられる。

3. 新しいキオスクとはどのようなものか

キオスク小屋のイメージとしてはポルトガルにあるキオスクを応用。屋根の上または周りに目立つ印を立てる。"JAPAN KIOSK"など。そして基本の小屋の形を一定に保ち、地域それぞれの特徴を出す。

・"JAPAN KIOSK"などといった印を作る→人々の目印になる。"あそこに行けば、大丈夫だ"という概念を創り出す。

・地域ごとの特徴をだす→東京であればモダンでメトロポリタンのイメージを打ち出す。京都であれば伝統的な作りで雰囲気を出し出す。こうすることによって、新しい"スポット"となると考えられる。



4. 具体的な商品・サービス提供内容

A. まずは前項から述べている、訪日外国人に対しての案内サービス。

→目的地への案内、公共交通機関の案内、周辺のオススメスポットの案内など

B. 飲料販売。

→コーヒー、お茶、清涼飲料水

C. 食品販売。

→サンドイッチ、お菓子など

D. パンフレットサービス。

各自治体が推奨するパンフレットや情報誌の無料提供。